

○「言語文化研究科アニュアルレポート」について

「言語文化研究科アニュアルレポート」のご案内を兼ね、まずは本研究科の沿革を簡単に紹介させていただきます。

本研究科は平成元年（1989年）4月、大阪大学言語文化部（昭和49年（1974年）4月設置）を基盤として、この分野における全国で初めての大学院独立研究科として発足しました。その後、平成17年（2005年）4月には、言語文化部を解消して大規模な再編拡充を行い、さらに平成19年（2007年）10月、大阪大学と大阪外国語大学との統合を機に、旧大阪外国語大学の言語社会研究科の流れを汲む「言語社会専攻」を設置しました。そして平成24年（2012年）4月には、同じく旧大阪外国語大学を基盤とする世界言語研究センターとの統合を果たし、言語社会専攻を大幅に再編拡充するとともに「日本語・日本文化専攻」を新設し、3専攻からなる現在の教育研究体制を整えました。

「言語文化研究科アニュアルレポート」の歴史は、旧言語文化部が昭和58年度（1983年度）に創刊した広報誌『言文だより』にさかのぼります。当時の『言文だより』は、各号に数編の「随想」を掲載するなど、どちらかといえば「文集」に近いものでしたが、その編集方針を大きく変更するきっかけとなったのも、大阪外国語大学との統合に伴う研究科の再編拡充でした。平成20年度（2008年度）の『言文だより』からは「言語文化研究科2008」等のサブタイトルを付け加え、研究科の教育研究活動や教員の研究業績等についてより詳細なデータを掲載することにしました。平成24年度（2012年度）からは、「言語文化研究科2012」等がメインタイトルとなり、サブタイトルに「Annual Report」という文字も入りました。

今回お届けする2017年度の「言語文化研究科アニュアルレポート」は、本研究科の教育研究活動をより幅広い方々にご報告することを目的に、報告書を紙媒体から電子媒体に改めたものです。また、これまでは紙媒体の報告書を年度内に刊行するために、その記事の一部は前年度の11月から当該年度の10月までのデータとしていましたが、今回のWeb化を機に、すべてのデータを当該年度内のものに統一することにしました。2017年度の「言語文化研究科アニュアルレポート」は、その移行期にあたるため、いくつかのデータ、たとえば教員の研究業績等は、2016年11月から2018年3月までのデータとしています。

「言語文化研究科アニュアルレポート」は、「Ⅰ. 教育活動」「Ⅱ. 研究活動」「Ⅲ. 予算」「Ⅳ. 社会貢献活動等」「Ⅴ. 教員情報」からなります。ご関心を引く記事だけでもご覧いただけましたら幸いに存じます。本研究科におきましても、このアニュアルレポートを自己評価報告書としてとらえ、本研究科のさらなる改善や発展のために活かしていきたいと考えています。